

窓

「窓」に寄せる思い

「教育に寄せる心を開く小さな「窓」」
小さな「窓」から広がる教育の世界が見えてきます。

福島県教育センター

「教育センターの今」

所長 加藤 知道



教育センターには、毎日多くの先生方が研修に訪れます。初任者研修や経験者研修のように定められた教員経験に基づく基本研修、校長のためのマネジメント研修のように個々の教職員の職責・職能に応じた教育活動に関する職能研修、そして各教科や生徒指導力の向上を目的とした専門研修等々、年間を通じて様々な研修が実施されており、教育センターはまさに研修の本丸というべき役割を担っています。そして、研修生の様子や感想から最も強く感じるの、研修意欲の高さです。研修生一人一人が、教育職は高度専門職であることを自覚し、専門性の向上を目指して努力している姿こそが、福島県の教育の根幹を担っているのだと実感します。また、研修は研修生と指導主事との真剣勝負の場でもあります。研修の効果を最大限高めるべく日々真剣に準備に取り組む指導主事の様子を見ると、福島県の教育に貢献する場は学校だけではないのだな、と感じます。私事で恐縮ですが、年度末に教育センターへの異動が決まって以降、目の前から生徒がいなくなってしまう寂しさばかりを感じていたのですが、真剣に研修に取り組む先生方や指導主事に接するようになり、考えを改めました。教育センターが関わる研修により、先生方の専門性が向上し（そして、元気になってもらって！）、学校現場に戻って授業や日常の指導により児童・生徒に還元される。そんな未来を紡ぐ明るい循環を教育センターは担っており、福島県教育委員会にとってこれ以上重要な部署はない！と、所長自身の気持ちを引き締めて開講の挨拶や所長講話に臨んでいます。

さて、皆さんにはそれぞれ理想や見本とする先生像があると思います。学校でも、あの先生なしでは学校が運営できないとか、常に行事を中心になっているような先生、すぐ頭に浮かびますよね？でも、その先生はどんな先生か、何ができるのか、具体的

に説明するのは意外に難しいのです。優しい、教え方がうまい、のように説明しますが具体的というよりはイメージで語られることが多いのです。また、教員採用に当たっては、求める教師像は示されていても、採用時点で求められる姿を具体的に示してはいませんでした。昨年度末、福島県教育委員会は教員養成に関わる福島大学とも連携しながら、教員等が高度専門職としての職責、経験及び適性に応じて身に付けるべき資質を明確化した「校長及び教員としての資質の向上に関する指標」を策定しました。

（もちろん、教育センターも策定に深く関わりました。）この指標は、教員生活を続けていく上でのルーブリックと言うべき性格のもので、教員生活のステージに応じて教員に求められる資質や能力を、言葉や文章で明確に示しています。つまり、採用時の姿を含め、教員が満たすべき必要条件を示しているのです。さらに、「教職員研修体系図」にも指標の基準を組み込み、研修体系全体を意識することにより、研修と連動した教員としての成長も見通しやすくなりました。この指標の目的は画一的な先生を作ろうとしているものではありません。指標に示された求められる資質・能力を満たした上で、それぞれの先生方の長所や個性が最大限に発揮されることにより、まさに理想の先生が数多く誕生する、という正のスパイラルのイメージです。そして、このような先生が数多く存在することが、これからの福島県の教育を更に発展させていくのだと思います。

教育センターには、研修以外にも学校現場に根ざした研究や、情報教育、教育相談、カリキュラムセンターとしての講師派遣、等々、様々な機能を備えています。ぜひ、本所報やWebサイト等をご覧ください。これまで以上に教育センターをご活用ください。

本誌に関するご意見・ご感想、並びに研修に関するご質問等がございましたら、下記連絡先までお寄せください。

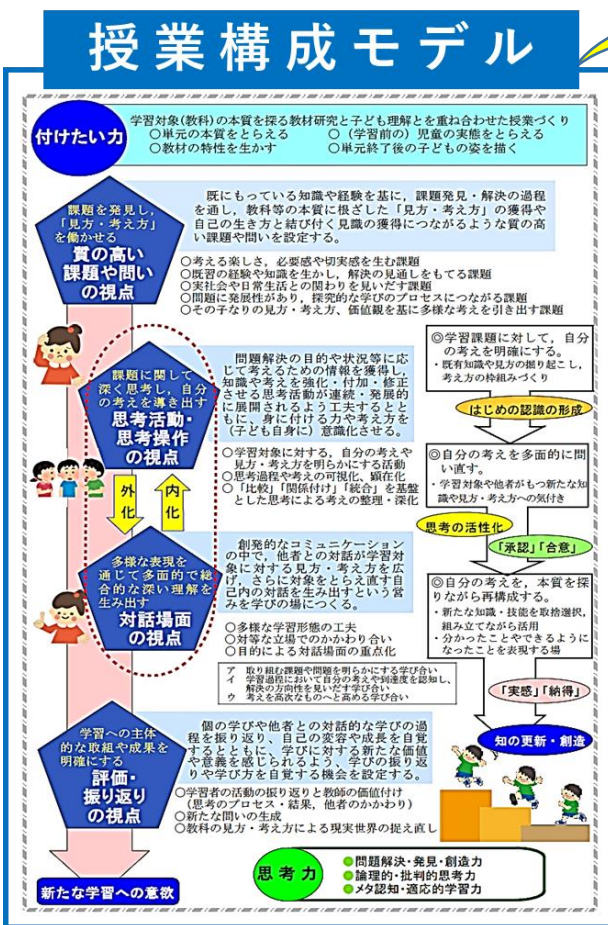
編集発行： 福島県教育センター 〒960-0101 福島市瀬上町字五月田16番地
TEL 024-553-3141 (代表) FAX 024-554-1588
URL <https://center.fcs.ed.jp/> E-mail center@fcs.ed.jp

高等学校におけるアクティブ・ラーニングの視点を生かした学習指導の在り方
 —高等学校における学習指導実態調査と授業の提案（第一年次）—

小中高の連携を意識し、授業改善の視点を共有

「小中学校において実践が積み重ねられてきたグループ活動や探究的学習等の
学習・指導方法の工夫の延長上に、学習・指導方法の抜本的充実を図る。」

高大接続システム改革会議最終報告（平成 28 年 3 月）



本チーム研究は、研究協力校と単元構想や授業づくり等を行うことを通して、今までチームで蓄積してきた小中学校における問題解決的な学習指導のノウハウ等を高等学校の授業改善に生かし、中高接続として生徒の学びをより確かなものにしていくものである。

本チーム研究の授業改善の視点として平成 29 年度の調査研究チームのチーム研究において作成した授業構成モデル(当センターWeb サイトから閲覧可能)の活用を図る。

平成 30 年 6 月に、県内の県立高等学校教員を対象として、アクティブ・ラーニングの視点から現在の学習指導に対する実態調査を行った。

特に、授業改善に関する項目は、授業改善の視点をふまえて作成した。

全高校教員にアンケート

アンケート項目

I アクティブ・ラーニングのとりえ

- ・アクティブ・ラーニングを取り入れたいと思うか、必要ないと思うか。
- ・取り入れたいとする理由(複数回答)
- ・必要ないとする理由(複数回答)

II

授業改善に関する内容

<単元や授業の前に> **資質・能力の育成の視点から**
・教科の内容を越え、社会で役立つ資質・能力の育成を意識していた。

<学習課題の設定> **質の高い課題や問いの視点から**
・生徒に考える楽しさや必要感、切実感を感じさせようとしていた。
・生徒に既習の知識や技能を生かし、解決の見通しをもたせるようにしていた。
・生徒に実社会や日常生活との関わりを見いだしさせようとしていた。
・発展性があり、生徒が自ら探究的に学ぶことにつながるようにしていた。
・生徒なりの見方・考え方を働かせ、多様な考えを引き出せるようにしていた。

<学習課題の解決：個での活動場面> **思考活動・思考操作の視点から**
・自分の考えをもたせ、個人で解決させる場を設けていた。
・自分の考えを可視化（書いたり話したり）する活動を通してはっきりさせていた。
・「比較」「関係付け」「統合」等の思考を働かせた整理や深化の場面を位置付けていた。

<学習課題の解決：対話活動場面> **対話場面の視点から**
・ペアやグループ等、学習形態を工夫していた。
・生徒同士の対等な立場での関わり合いとなるようにしていた。
・何のための対話なのか目的を明確にして対話活動を位置付けていた。

<まとめ、振り返り> **評価・振り返りの視点から**
・思考の過程やその結果を振り返らせる中で、生徒をほめたり認めたりしていた。
・授業の振り返りから新たな問いを引き出すようにしていた。
・獲得した見方・考え方で、実社会や日常生活を捉え直す機会を設けていた。

<授業全体を通して> **深い学びの視点から**
・学習課題に対して自分の考えを明確にし、それを多面的に問い直し、本質を探りながら再構成する展開にしていた。

その他、校内研修に関するアンケートも同時に行った。結果については、現在集計を行っている。集計結果は11月に公表する予定である。

授業づくり

研究協力校：福島県立福島高等学校

アクティブ・ラーニングの視点を生かした授業づくりを研究協力校で行っている。

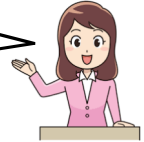
半谷徳夫教諭による第2学年数学A「三角関数」では、加法定理の理解を深めるため、直角三角形の辺の比の値を使って $\sin 75^\circ$ の値を求める方法を考える活動を取り入れた。既習の知識を生かしながら自ら解決した結果をグループで比較吟味する活動の中で、生徒同士が話し合いながら三角関数と加法定理の理解を深める姿が見られた。

今後も授業実践を通し、よりよい学習指導の在り方について提案を行っていく。



道徳科の授業づくり ～発問と内容項目～

道徳科の授業づくりでは、発問の精選と内容項目の理解が重要です。この二つのとらえ方を紹介します。



「考え、議論する」道徳科の授業を実現するための発問づくり

考え

登場人物の心情が劇的に変化するところで、自我関与的な発問を行う。

議論する

柔軟な発想で多面的・多角的に考えさせることで、自己を見つめ、道徳的諸価値の理解を深める発問を行う。

【「考える」発問の例】

「最後の空白のページに、ぼつんとにじんだインクの跡を見たとき、僕はもういたたまれなくなって、外に出た」ところで、「僕」は、心の中でどのようなことをつぶやいたでしょうか。

〈意図〉

家族愛について考えることを通して、家族の一員であることの自覚を高めることができるようにする。

「一冊のノート」文部科学省「私たちの道徳 中学校」より

【「議論する」発問の例】

「家族と共に幸せな日々を過ごせることへの感謝」とあるが、具体的にどうということだろうか。

〈意図〉

祖母の視点という多面的・多角的な考え方に触れることで、自分とは異なる視点から物事をとらえることができるようにする。

学習指導要領で示されている内容項目のとらえ方

【内容項目を正確にとらえる】

内容項目を正確にとらえるとは、どういうことでしょうか。たとえば、内容項目の「正直、誠実」は、「他人や仕事に対してまじめで真心がこもっている」（広辞苑）ということだけでなく、「他の人の受け止めに過度に意識することなく、自分自身に誠実に生きようとする気持ち」（小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編）まで含んでいます。このように、正確にとらえる必要があります。

【内容項目を段階的にとらえる】

内容項目の「家族愛、家庭生活の充実」を例に挙げて考えてみます。理解が浅い段階は、父母や祖父母を敬愛する気持ちをもっている状態です。理解が進んだ段階になると、家族のそれぞれの立場になって考えられるようになります。理解がさらに深まった段階は、家庭生活を営む上で、自分はどのような役割を果たせばよいのかを考えることができるようになる状態です。

小学校外国語の授業デザイン

START

1 意欲の向上と学習内容の想起、めあての確認など (外国語活動・外国語科)

絵や写真、動画等を通して海外の文化に触れさせたり、日本や日本語との違いを感じさせたりしながら多様な価値観や考え方に会わせる。ゲームや体験的な活動を通して既習事項の復習をさせたり本時の学習の見通しをもたせたりする。

2 まずは、音声に十分慣れ親しませる (外国語活動・外国語科)

(絵や写真を見せながら) モデル (教師、ALT、デジタル教材) を示す。モデルの音声を何度も楽しみながら聞かせて耳になじませる。

今度は実際に口で言わせてみる。歌やチャンツ、リピートなどを通して何度も楽しみながら口に出させる。口になじませる。

学級担任が授業を行うための秘訣

デジタル教材などの音声を使うことで英語に自信がなくてもモデルを提示することができます。児童も先生も聞こえたように発音してみます。

学級担任が授業を行うための秘訣

英語に自信がないうちは英語の学習者のモデルになることで誰でも授業ができます。日本語の音声との違いに気付かせます。

3 言語活動を通してリアルなコミュニケーションを行わせる (外国語活動・外国語科)

目的や場面・状況を設定し言語活動としてリアルなコミュニケーションを行わせる。目的や場面・状況の中で表現させないとドリル的な練習になってしまう。英語でコミュニケーションをする必然性があるとよい。

4 音声で慣れ親しんだものを読み書きさせる (外国語科)

まずは見て識別させる。①アルファベットの識別・・・ある文字を別の文字と区別して分かる。(p はどれ?) ②単語の識別 (絵本を見ながら、April はどれ?)。

次に見て発音させる。①アルファベットを見て発音。②単語を見て発音。

続いて意味を推測させる。(we, have, snow, We have ~ in ~. の音声に十分慣れ親しんでから We have a now festival in ○○ city. の意味を推測させる。訳すことではない。)

最後に何らかの目的を達成のために読む活動 (言語活動) をさせる。(手紙を読んで友達の誕生日を伝えよう)

読めるようになったアルファベットを見て写させる。

次に正しく発音されたアルファベットを聞いて書かせる。

相手に伝えるなどの目的をもって書く言語活動を行わせる。(国名に十分慣れ親しみ、国名を使って十分話し、国名を読んで意味が十分に分かった後で、行きたい国名を書き写して伝える。)



5 既習の語や表現を意図的に繰り返し触れさせる (外国語活動・外国語科)

例 Interview Game のたびにニックネームを決めさせて、How are you? / I' m ~

例 活動の後に獲得した点数を尋ねる How many (points) ~?

例 How are you? に対してのネガティブな返答 (I' m hungry. など) に What do you want?

例 持っているか/あるかどうかを聞くとき Do you have ~?

G Suite for Education を活用しよう



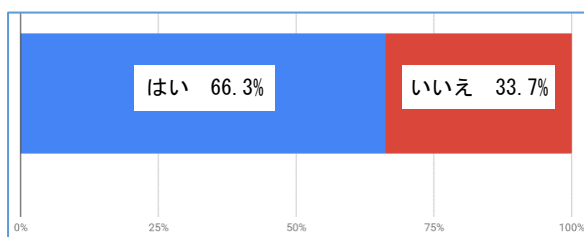
G Suite for Education ってなあに？

G Suite for Education (以下G Suite) とは、Google 社が提供している Gmail、カレンダー、オンラインストレージなどの機能を端末に依存することなく利用できるクラウド型オフィスアプリです。福島県では、以前使われていた FKS メールシステムに代わり、平成 28 年度から校務の効率化を図るためのシステム「ふくしま教育クラウドサービス (FCS)」として運用を開始しています。また、福島県多忙化解消アクションプランのマネジメント体制の改善(2)では、校務の多忙化を解消するために、「ふくしま教育クラウドサービス (FCS) の活用」を掲げています。

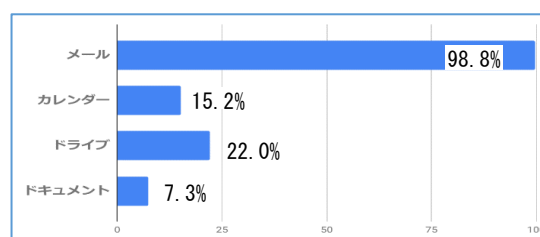


G Suite の利用状況

教育センター情報教育チームで毎年実施している「福島県の情報教育の実態等に関する調査」では、「校務において G Suite のアプリを使用しましたか」という質問に対して、使用したと回答した割合は、全体で 66.3% でした。その中で、校務で使用した G Suite のアプリは、「メール」98.8%、「カレンダー」15.2%、「ドライブ」22.0%、「ドキュメント」7.3% となっており、メール以外のアプリの利用率が低いことが分かりました。



校務において G Suite のアプリを使用しましたか



校務で使用した G Suite のアプリ



どんなことができるの？

G Suite は、様々な情報をクラウド上で一元管理しているため、職員室に配置しているパソコンだけではなく、授業で活用するタブレットなどの端末でも情報を活用することができます。

また、会議などの資料を共有するだけではなく、会議と同時進行で資料編集することも可能です。さらに、これまでは USB などの媒体に記録してデータの受け渡しをしていましたが、このことは情報漏洩事故につながる危険性がありました。G Suite ではクラウド上でデータを一元管理しているため、安全性が確保できます。





使い方を知りたいな？

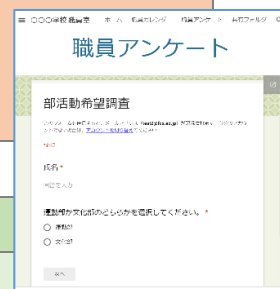
福島県教育センターでは、はじめて使う先生方から校内グループウェアとして使いたいと考えている先生方まで、以下の専門研修と出前講座を通して、学ぶことができます。

専門研修

講座名	はじめての G Suite 基礎講座
目的	G Suite for Education のアプリであるメールやカレンダー、ドライブなどの使い方を習得し、校務処理での活用能力を高めます。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ G Suite の概要 ○ メールとハンガアウトによる情報伝達 ○ カレンダーによるスケジュール管理 ○ ドライブの活用と共有



講座名	グループウェアで活用する G Suite 実践講座
目的	校内グループウェアとしての G Suite for Education の活用方法を学び、校務の情報化を推進するための知識と技術を高めます。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループウェアの概要 ○ 校内グループウェアとしての G Suite 活用 ○ 各学校の校内共有サイトの構築



出前講座

講座名	校内グループウェア活用講座
目的	FCS メールを含む G Suite によりクラウドを生かしたグループウェアを活用し、校務の情報化を進め、業務を効率化する方法を学びます。 ※ふくしま教育クラウドサービス (FCS) を導入している学校が対象



受講者の声

- もっと多くの方がこの知識をもつことで、より一層仕事が効率よくできると感じました。
- いつも使っている G Suite であったが、本当にこの使い方の良いのか不安であった。今回の研修により、自信をもって学校で使っていきたいと思う。
- すでに利用していたが、使用していない便利な機能がたくさんありました。
- 通常の校務だけでは知ることができないことがあり、とても勉強になりました。



G Suite は、メールだけではなく様々なアプリを活用することで、業務の効率化を図ることができます。詳しくは、教育センター情報教育チームまでご連絡ください。

平成 30 年度福島県教育研究発表会

～ 明日の 福島の 教育をつくる ～



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

教育センターでは、県内公立学校教員の優れた教育実践・研究及び当センターの研究の成果をもとに、意見交換や交流を通して本県学校教育の向上に資することをねらいとして教育研究発表会を実施しています。今年度は、学習指導、教科指導、教育相談、情報教育等について、6会場18件の研究・実践発表と講演会を予定しています。

講演会は、早稲田大学教職大学院教授 田中 博之 氏を講師に招き、『深い学びを生み出す授業と評価マネジメント』のテーマでご講演いただきます。県内各教育機関をはじめ、教育に関心のある多くの方のご参加をお待ちしております。詳しくは、福島県教育研究発表会2次案内、教育センターWebサイトをご覧ください。

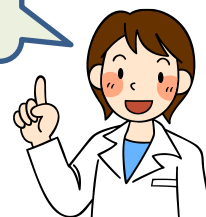


□期 日 平成30年11月29日(木) 9:40～16:00

□会 場 福島県教育センター(福島市瀬上字五月田16)

□参加申込 10月初旬の2次案内及び教育センターWebサイトに掲載する方法に従って、申込をお願いいたします。

多数のご参加
をお待ちして
おります。



Web サイトリニューアルのお知らせ

当教育センターは、平成30年9月18日(火)にWebサイトをリニューアルしました。新Webサイトのアドレスは、

<https://center.fcs.ed.jp/>

です。ブラウザの「お気に入り」「ブックマーク」などに登録されている場合は、新しいURLへの変更をお願いいたします。なお、旧Webサイトは平成30年10月31日(水)をもって閉鎖となります。

今回のリニューアルでは、より見やすく、使いやすく、親しみやすいWebサイトを目指して、デザインやメニュー構成を一新し、スマートフォンやタブレットへも対応しています。

今後も県内の教職員など多くの皆様にご利用いただけるWebサイトを目指し、内容のさらなる充実を図り、より活用しやすい情報提供を行ってまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

(事務担当 総合企画チーム TEL 024-553-3193)